

# 大阪体育大学 大学スポーツ・サステナビリティ・インパクトレポート2024

OUHS  
College Sports Sustainability Impact Report 2024

2026年7月

---

大学スポーツを通じて、人を育て、地域をつなぎ、well-beingに貢献する

---

大阪体育大学  
Osaka University of Health and Sport Sciences

# 本物を学び、極める

## 目次

I. 大阪体育大学における大学スポーツ	
1. 大阪体育大学の概要	4
2. 大体大が目指す大学スポーツの未来	5
II. 大阪体育大学が描く、大学スポーツの社会的価値	
1. 大体大ビジョン2031と社会貢献	7
2. 大体大サステナビリティ	8
3. 大体大スポーツSDGs	9
4. 大体大スポーツSDGsウェブサイト「Actions」掲載記事分析からみる目標貢献	10
5. 大体大・大学スポーツエコシステム	11
III. 大体大・大学スポーツエコシステムが生み出す社会的価値	
1. 本レポートにおけるインパクトの捉え方	13
2. 大体大スポーツエコシステムのインパクト・サマリー（2024年度）	14
① 社会貢献センター	15
② スポーツ局	17
③ クラブ活動	19
3. 本レポートが明らかにしたこと／今後の課題と展望	22
IV. 大阪体育大学 大学スポーツサステナビリティ・パートナー制度（検討中）	
大阪体育大学 大学スポーツサステナビリティ・パートナー制度（検討中）	24
資料① 大学スポーツSDGs17目標達成への貢献の判断基準	25
資料② クラブ・同好会一覧	26

# I.

## 大阪体育大学における大学スポーツ

1. 大阪体育大学の概要
2. 大体大が目指す大学スポーツの未来



## 1. 大阪体育大学の概要

### — 教育・研究・スポーツの実践を通じて社会に貢献する大学 —

大阪体育大学は、1965年に西日本初の体育大学として設立された。開学以来、スポーツ活動の実践を通じた教員・指導者養成を大きな柱としながら、スポーツ選手を支える人材や、スポーツ活動、健康づくりをマネジメントする人材の養成にも力を注いできた。

その原点にあるのが、「不断的努力により智・徳・体を修め社会に奉仕する」という建学の精神である。草創期を支えた加藤橘夫元学長（初代体育学部長）は、東京大学教授として体育・スポーツの研究と教育を牽引し、日本体育学会の創立にも貢献した理論家であった。大島鎌吉初代副学長は、1932年ロサンゼルス五輪三段跳銅メダリストであり、1964年東京五輪では選手強化対策本部長・日本選手団長を務めた人物である。両氏の志は、体育・スポーツの力で社会に貢献するという本学の原点として、今日の教育・研究・社会貢献にも受け継がれている。

現在、本学はスポーツ科学部、教育学部、大学院スポーツ科学研究科を擁し、在学者数は2,767人（2024年度）である。大体大ビジョン2031では「本物を学び、極める」を掲げ、教育・研究・社会貢献を通じて社会の多様な価値創造に貢献する大学として歩んでいる。こうした歴史、教育研究体制、人材育成の蓄積を基盤として、大阪体育大学は大学スポーツを通じた社会的価値の創出と発信に取り組んでいる。



加藤橘夫 元学長



大島鎌吉 元副学長



大阪体育大学茨木キャンパス（1965～1988年）

#### 【ポイント】

- 大阪体育大学は、西日本初の体育大学として1965年に設立された。
- スポーツ科学部、教育学部、大学院スポーツ科学研究科を擁し、教育・研究・スポーツを一体で展開している。
- 充実した施設とカリキュラム、実践環境を基盤に、社会に貢献する人材を育成している。



## 2. 大体大が目指す大学スポーツの未来

### — 学生・地域・社会のwell-beingを支える大学スポーツへ —



現代社会において大学に求められる役割は、教育・研究にとどまらない。地域連携、人材育成、健康課題、多様性と包摂への対応など、大学が社会に果たす責任と役割が問われている。こうした視点は、USR (University Social Responsibility: 大学の社会的責任) として捉えることができる。

本学は、大学スポーツを教育・研究・社会貢献の結節点として捉え、学生の成長、地域とのつながり、社会課題への応答を生み出す実践基盤として発展させてきた。本学の大学スポーツは、単なる競技活動ではなく、学生が挑戦し、協働し、責任を学び、社会と関わる力を育む場である。同時に、地域や社会との接点を広げ、well-beingの向上に貢献し得る公共的实践でもある。

本レポートは、その価値を可視化し、社会に向けて伝えるためのものである。大学スポーツの価値は、これまで競技成果や個別活動の紹介にとどまりがちで、社会的価値として十分に共有されてこなかった。そこで本レポートでは、その背後にある学生の成長、地域との共創、社会課題への応答を示すことで、本学が目指す大学スポーツの未来を明らかにする。

本レポートでは、その価値をまずスポーツ局・クラブ活動・社会貢献センターという中核3機能から可視化する。

#### 【ポイント】

- 大阪体育大学には、学生が成長し、地域や社会とつながる大学スポーツの実践基盤がある。
- その実践基盤を、教育・研究・社会貢献が循環する価値創造の場へと高めていく。
- 大学スポーツの価値を可視化し、学生・地域・社会のwell-beingを支える未来へ広げていく。



## Ⅱ.

# 大阪体育大学が描く、大学スポーツの社会的価値

1. 大体大ビジョン2031と社会貢献
2. 大体大サステナビリティ
3. 大体大スポーツSDGs
4. 大体大スポーツSDGsウェブサイト「Actions」掲載記事分析からみる目標貢献
5. 大体大・大学スポーツエコシステム



## 1. 大体大ビジョン2031と社会貢献



大阪体育大学は、「不断の努力により智・徳・体を修め社会に奉仕する」の建学の精神のもと、未来社会のあるべき姿を見据え、新しい時代を切り開く能力を有する人材を社会に輩出してきました。それを支えてきたのは、教育、研究、そしてスポーツの本物を追求しようとする高い志です。本学は、本物を学び、極める大学として、これからも社会の多様な価値創造に貢献していきます。

### 基本戦略

#### 教育

豊かな教養と体育学・スポーツ科学・教育学に関する様々な専門知識を備え、社会に貢献する本物の人材を育成します。

#### 研究

競技力の向上、教育の発展、スポーツ文化の振興、健康の増進に寄与する本物の研究を追求します。

#### 社会貢献

体育・スポーツ・教育とその人材育成の力を活かして、一人ひとりと社会をつなぐ、次世代の豊かで健康な社会づくりを目指した事業を推進します。

### 【ポイント】

- 本学は、社会貢献を大学の重要な柱として位置づけている。
- 社会貢献は、本学の資源を活かした価値創造と社会還元である。
- 学生の学びと実践を社会的意義へつなげることに、本学の特徴がある。

大阪体育大学は、「大体大ビジョン2031」において、「社会貢献」を大学の重要な柱の一つとして位置づけている。本学における社会貢献とは、大学が外部に対して何らかの支援を行うことにとどまらず、スポーツを基軸に、教育、研究、人材育成といった本学固有の資源を活かし、社会と接続しながら新たな価値を創出し、それを持続的に社会へ還元していく営みである。

その根底にあるのが、「不断の努力により智・徳・体を修め社会に奉仕する」という建学の精神と、「本物を学び、極める。」という本学の基本姿勢である。ビジョン2031では、スポーツと人材育成によるSDGs達成への貢献、体育・スポーツ・教育の価値向上、大学スポーツ振興の推進体制強化などが示されている。

本学にとって社会貢献とは、活動の量を増やすことではなく、学生一人ひとりの学びと実践が地域や社会への貢献へとつながっていくことに本質がある。ここに、体育大学としての資源を社会的意義へと転換していく、本学の社会貢献の特徴がある。

## 2. 大体大サステナビリティ — 大学スポーツを、社会を支える実践インフラへ —

### 【ポイント】

- 本学のサステナビリティは、well-beingを含む広い社会的持続可能性である。
- 大学スポーツは、教育・地域・共生を支える公共の実践の場である。
- 本学は、大学スポーツを社会を支える実践インフラとして位置づける。

本学が捉えるサステナビリティは、環境配慮にとどまらず、教育、健康、地域、共生、そしてwell-beingを含む広い社会的持続可能性である。大学は、知的・人的・実践的資源を通じて、その実現に継続的に役割を果たす責任を担っている。

この視点に立つと、大学スポーツは単なる課外活動ではない。学生の成長を促す教育の場であり、地域と接続する社会実践の場であり、健康や共生に寄与する公共的な場でもある。大阪体育大学におけるサステナビリティとは、こうした大学スポーツの実践を通じて、教育・健康・地域・共生・well-beingを持続的に支えていく考え方である。

本学は、この大学スポーツを「社会を支える実践インフラ」として捉える。大学スポーツを学内に閉じた活動ではなく、社会を支える基盤として再定義する考え方である。ここに、「大学スポーツを社会インフラへ」という大体大サステナビリティの核心があり、本学はこの価値を継続的に社会へ接続していく。



### 大阪体育大学 CAMPUS NEWS

本学学生延べ約150人が中学などで部活動指導育成講座「グッドコーチ養成セミナー」修了証を7名に授与

中学校などで運動部活動の指導にあたる学生を育成する大阪体育大学の「グッドコーチ養成セミナー」の2024年度修了証が、本学学生7名に授与されました。運動部活動は、国が中学校の週末の部活動を学校部活動（学校教育）として地域と連携する方針や、新たな地域クラブ活動（社会教育）として地域の社会スポーツクラブに移行する方針を打ち出すなど大きな転機を迎えています。教員の長時間労働の是正、指導者による体罰の防止などの観点からの改革も急務です。このため、大阪体育大学はスポーツ庁からの事業受託を契機に、運動部活動改革プロジェクトを推進しています。



### 小中学生約320人と剣道で交流、指導錬成会を開催

剣道の「大阪体育大学指導錬成会」が2月14日（土）、大阪体育大学第1体育館剣道場、バスケットボール場で開催されました。  
男女剣道部員が大府市内の道場に訪う小中学生約320人を指導しました。  
錬成会は大府剣道道連盟の主催。2017年、少年・少女剣士の指導の場を広げる狙いで錬成会から神崎浩剣道部顧問（現学長）に依頼があり、スタートしました。新型コロナウイルス禍での中断をはさんで、毎年実施されています。子どもたちに大学の雰囲気を知ってもらおうと、基本的に学内で開催しています。今回の錬成会は「楽しく稽古する」がテーマ。参加者の少年・少女に、より剣道の楽しさが伝わるような稽古メニューを3年生が中心になって考え、指導します。続きは大阪体育大学公式HPをご覧ください。



### 3. 大体大スポーツSDGs

#### — 大学スポーツの価値を社会課題へ接続する実装フレーム —

##### 【ポイント】

- 大体大スポーツSDGsは、本学の価値創造を支える実装フレームである。
- 大学の実践を、社会課題とwell-beingの視点で再編集する。
- 本学の取り組みを、社会に伝わる価値へ翻訳し、接続する。

本学では、研究、教育、社会貢献、そしてスポーツという本学固有の資産を活用し、社会課題への応答と共有価値の創造へ結びつける枠組みとして、「大体大スポーツSDGs」を推進している。これは、組織横断型・社会連携型・パートナーシップ型のプロジェクトとして、本学の多様な実践をつなぐ実装フレームである。

ここで重要なのは、SDGsを単なる目標一覧や活動のラベリングとして扱わないことである。「大体大スポーツSDGs」は、大学の実践を社会課題の解決や共有価値の創造という視点から再編集し、学内外の多様な主体とつなぐ共通言語である。同時に、本学の教育・研究・スポーツ・社会連携の実践を、社会に伝わる形へ翻訳し、外部の多様な主体が重視する社会課題と接続する枠組みでもある。

このフレームを通じて、本学の大学スポーツは教育、健康、地域、共生といった複数の社会領域に接続される。こうして生み出される成果は、学生・地域・社会のwell-beingへとつながると同時に、本学の教育・研究・社会貢献の価値をさらに高める循環を生み出していく。すなわち、大体大スポーツSDGsは、大学スポーツの価値を社会課題と接続し、共有価値の創造へと導く実装フレームである。



大阪体育大学は、「大体大ビジョン2031」の基本戦略「社会貢献」の重点施策として「スポーツと人材育成によるSDGs達成への貢献と体育・スポーツ・教育の価値向上の事業推進」を掲げました。SDGsは、「環境」整備と共に地域の「社会」と「経済」を持続的に発展させる仕組み、そして、企業を発展に導くビジネスモデルとして注目されています。大学スポーツにおけるSDGsの取り組みや体系化はまだ始まったばかりです。本学は、「大学スポーツSDGs」の体系化を図り、大学スポーツのステークホルダーとの共有価値創造のための社会貢献活動を推進し、SDGs目標の達成と社会とスポーツ界の持続可能な発展に貢献していきます。



## 4. 「大体大スポーツSDGs」ウェブサイト: Actions掲載記事からみるSDGs目標貢献

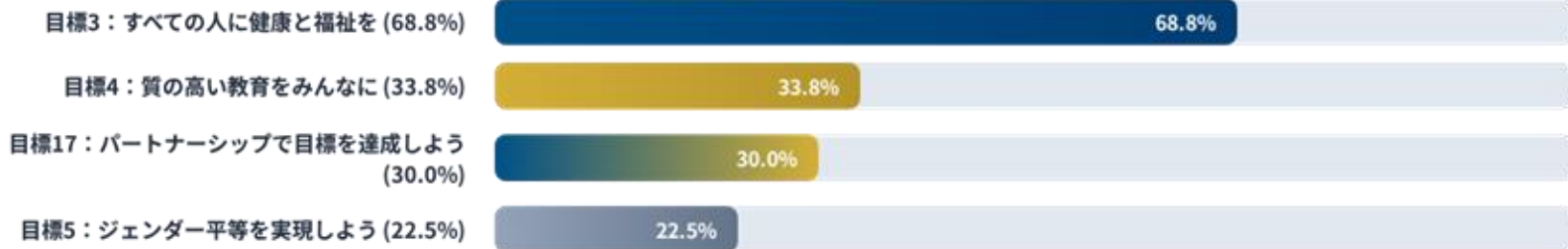
### 【ポイント】

- ACTIONS掲載記事の分析から、本学の実践傾向が読み取れる。
- 記事分析では、健康・教育を基盤に、地域・連携へ広がる傾向が見られる。
- この傾向は、本学のスポーツ関連実践が多面的な社会的価値を生み出していることを示している。

大体大スポーツSDGsの意義は、本学の実践を社会課題との関係から整理し、その価値を社会に伝わる形へ翻訳する点にある。本ページでは、ACTIONS掲載記事の分析を通じて、本学のスポーツ関連実践がどのような社会的価値に接続しているのかを確認する。

ACTIONS掲載記事を分析すると、掲載されている実践は、健康や教育に関わる領域への貢献が大きく、そこに本学の基盤的な特徴が表れていることが確認できる。加えて、地域社会との関係づくりや、多様な主体との連携に関わる領域にも広がりがみられ、スポーツ関連実践が競技活動にとどまらず、社会との関係の中で多面的な価値を生み出していることが読み取れる。

すなわち、記事分析からは、ACTIONSに掲載された本学のスポーツ関連実践が、健康と教育を土台としながら、地域やパートナーシップへと価値を展開している傾向が見て取れる。この結果は、本学が発信しているスポーツ関連実践の社会的価値の特徴を示すものである。さらに、後半で示すクラブ活動の実践とそのSDGsへの貢献をあわせて捉えることで、本学の大学スポーツ、さらには本学全体のスポーツ関連活動の価値を、より総合的に理解することができる。



「大体大スポーツSDGs」ウェブサイト: <https://www.ouhs.jp/ouhs-athletics/ouhs-sdgs/>

このサイト内の「ACTIONS」記事は、大学が展開する教育、人材育成、研究、地域連携、社会課題への対応などであり、クラブ(運動部など)が主体的に展開している地域・社会活動の掲載は少ない。2024年度に掲載された記事は80件。掲載記事の内容は複数のSDGs目標に関連している。



## 5. 大体大・大学スポーツエコシステム

### — 学生中心！大学スポーツの価値を社会的価値へ高める運用システム —

#### 【ポイント】

- 本学の価値創造の中心には、学生の学びと実践がある。
- スポーツ局・クラブ活動・社会貢献センターが、学生の成長と社会接続を支える。
- その循環が、社会的価値と大学価値を高め、well-beingへとつながる。

大体大・大学スポーツエコシステムは、学生を価値創造の中心に置き、その学びと実践を組織的に支え、地域や社会へ接続する運用システムである。大阪体育大学の特徴は、大学スポーツの価値を理念や活動紹介にとどめず、継続的な社会的価値へ高めていく点にある。本レポートでは、その中核を担う機能として、スポーツ局・クラブ活動・社会貢献センターの連動を捉える。スポーツ局は推進基盤を整え、クラブ活動は学生が成長し価値を生み出す現場となり、社会貢献センターはその学びと実践を地域や社会へ広げる役割を担う。

この三つの機能が連動することで、学生は競技者であるだけでなく、地域や社会と関わる実践者として育っていく。学生は多様な実践を通じて、他者と協働し、課題に向き合い、自らの学びを社会的価値へ転換していく。その成長は、地域との共創や社会への貢献へと広がる。

このエコシステムにより、学生の成長は地域との共創や社会への貢献へ広がり、その社会的価値は本学の教育・研究・社会貢献の価値向上、そして学生・地域・社会のwell-beingへとつながっていく。この循環は、共有価値の創造(CSV)の視点からも捉えることができる。ここに、大学スポーツの価値を個別活動の集合ではなく、大学全体の社会的価値として束ね、多様な主体との協働・共創へ接続できる本学の独自性がある。



## Ⅲ.

# 大体大・大学スポーツエコシステムが生み出す社会的価値

1. 本レポートにおけるインパクトの捉え方
2. 大体大スポーツエコシステムのインパクト・サマリー（2024年度）
  - ① 社会貢献センター
  - ② スポーツ局
  - ③ クラブ活動
3. 本レポートが明らかにしたこと／今後の課題と展望



# 1. 本レポートにおけるインパクトの捉え方

本レポートにおけるインパクトとは、本学の大学スポーツに関わる実践が、学生の成長、地域社会の課題解決と価値創造、well-beingへの貢献を通じて、学生・地域・社会にどのような価値と変化を生み出しているかを示すものである。活動件数や参加者数、実施日数などの数値は、インパクトを直接証明するものではないが、その実践が生み出している価値と変化を示し、インパクトを読み解くための根拠となる。SDGs目標との接続は、3つのインパクトがどの社会課題に接続しているかを示す補助的な評価軸として位置づける。

## インパクト

### 01 学生の成長

学生が多様な実践機会の中で学び、役割を担い、社会と関わる力を育てていくことへのインパクト。

関連SDGs **4** **8** **17**

### 02 地域社会の課題解決と価値創造

地域住民、自治体、学校、企業、地域団体などとの連携を広げ、地域課題への応答と新たな社会的価値の創出につなげていくことへのインパクト。

関連SDGs **10** **11** **17**

### 03 well-beingへの貢献

健康、学び、交流、包摂につながる機会が創出され、学生・地域・社会のよりよい状態を支えていくことへのインパクト。

関連SDGs **3** **4** **10** **11**

## 事業・活動

### 社会貢献センター

- 事業数
- 運営学生数(延べ数)
- 運営指導者数(延べ数)
- 参加者数(延べ数)
- 活動日数(延べ数)
- 関連企業・団体・自治体(実数)
- SDGs目標との接続

### スポーツ局

- 事業数
- 運営学生数(延べ数)
- 運営指導者数(延べ数)
- 参加者数(延べ数)
- 活動日数(延べ数)
- 関連企業・団体・自治体(実数)
- SDGs目標との接続

### クラブ活動

- 事業実施クラブ数
- 事業数
- 運営学生数(延べ数)
- 運営指導者数(延べ数)
- 参加者数(延べ数)
- 活動日数(延べ数・クラブ別延べ数)
- 関連企業・団体・自治体(実数)
- マナーアップキャンペーン参画状況
- SDGs目標との接続

連携・学生参画

【 大体大・大学スポーツエコシステム 】

## 2. 大体大スポーツエコシステムのインパクト・サマリー(2024年度)

本ページは、社会貢献センター、スポーツ局、クラブ活動の各ページで提示するインパクトを、エコシステム全体の視点から整理したサマリーである。三つの機能は相互に連動しながら、学生の成長、地域社会の課題解決と価値創造、well-beingへの貢献を生み出している。以下では、その具体的な内容を各機能ごとに示す。

※ 各数値は各機能の2024年度実績に基づく

### ① 社会貢献センター (15事業) 2024年度



### ② スポーツ局 (17事業) 2024年度



### ③ クラブ活動 (92事業) 2024年度



### 【インパクト】

- 【学生の成長】 多くの学生が事業運営に参画し、主要な役割を担い、参加者や企業・団体・自治体と関わる力を育んだ。
- 【地域・社会の価値創造】 多くの参加者、企業、団体、自治体、学校などとの連携から、地域課題の解決に取り組むと共に、本学と地域社会の新たな社会的価値の創出につなげた。
- 【well-beingへの貢献】 多くの健康、学び、交流、包摂につながる多様な機会を創出し、学生・地域・社会のよりよい状態の構築に貢献した。
- 【SDGs目標への貢献】 特に、「3: 全ての人に健康と福祉を」「4: 質の高い教育を」「10: 人や国の不平等をなくそう」「11: 住み続けられるまちづくりを」「17: パートナリーシップで目標を達成しよう」のSDGs目標に強く接続している。



# ① 社会貢献センター

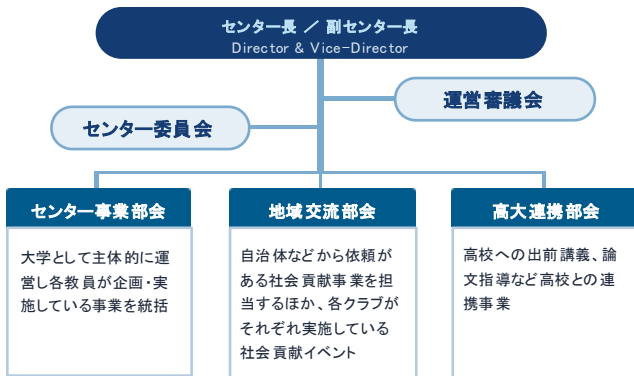
— 教育・研究・社会貢献を一体的に推進する、地域共創の中核拠点 —

## 社会貢献センターの歩みと使命(設立背景・ミッション)

社会貢献センターは、開学以来の「社会体育・生産体育・学校体育」の理念を継承し、生涯スポーツ実践研究センターと健康福祉実践研究センターの統合を経て、2018年に発足した。教員・学生という人的資源と、施設・設備などの物的資源を社会と結び付け、行政、企業、学校、地域団体等との連携を通じて、スポーツ推進、学校教育支援、地域づくりを進めるとともに、教育・研究・社会貢献を一体的に推進する地域共創の拠点として機能している。

### 02 社会貢献センター 組織図

Organization Structure



#### 社会貢献センターとは

- 大学のヒトとモノを社会とつなぎ、学生には学びの機会を、教員には研究成果の発信と研究データ収集の機会を創出する組織である。
- センターは「センター事業部会」「地域交流部会」「高大連携部会」の3部会から成る。
- 各部会は、大学主体の事業統括、自治体依頼・クラブの社会貢献活動、高校への出前講義や論文指導など、それぞれの役割で社会と連携している。

### 03 事業概要 / Activity Overview

年間の事業実績を4つの切り口で可視化

#### 事業数

15 件

#### 実施頻度(定期率)

100 %

定期実施  
(全事業が継続実施)

#### 実施形態



#### 事業内容



#### 実施地



### 04 活動実績・インパクト / Impact & Results

2024年度の主要指標(実施ベース)

運営学生数  
(延べ数)

2,423人

運営指導者数  
(延べ数)

239人

参加者数  
(延べ数)

3,516人

活動日数  
(延べ数)

96日

関連企業・団体・自治体  
(実数)

39

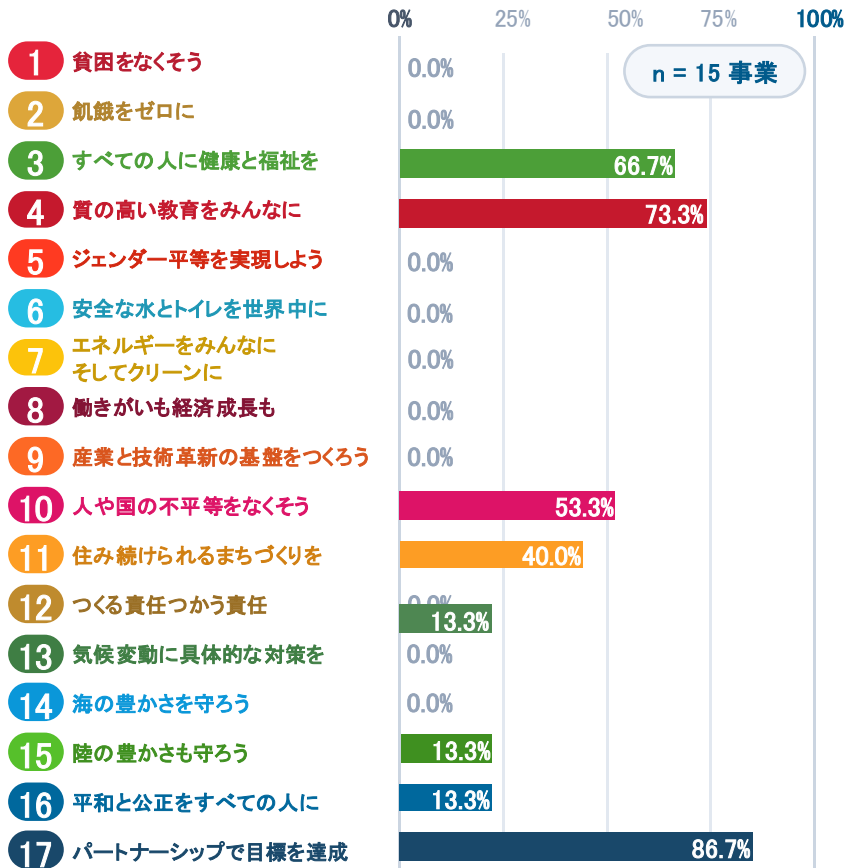
- ※ **参加者数(延べ人数)** は、大型イベント派遣・協力(くまとりロードレース、西成区民体育レク等)を除いた数値。
- ※ **関連企業・団体・自治体** は、延べ66団体のうち重複を除く実数。



## 社会貢献センターによるスポーツSDGs目標への接続状況と事業一覧

- SDGs目標への接続状況は、社会貢献センターの事業が健康、教育、地域づくり、パートナーシップに広く接続していることを表す。
- 継続実施率の高さは、地域と安定的な関係を築きながら、地域共創の拠点として機能していることを表す。

### 01 社会貢献センターによるSDGs17目標への接続状況(全15事業)



### 02 社会貢献センター 事業リスト(全15事業)

活動名	実施形態	主催団体	実施場所	実施場所(詳細)	実施頻度	活動日数
めざせスポーツマスター	受託	泉大津市教育委員会	学外	大阪府	定期(年)	8
特別支援教育支援事業 アフタヌーン研修会	主催	大阪体育大学	学内	大阪府	定期(年)	4
特別支援教育支援事業 教育講演会	主催	大阪体育大学	学内	大阪府	定期(年)	1
教育出前講座プロジェクト	主催	大阪体育大学	学外	大阪府和歌山県	定期(年)	17
第35回くまとりロードレース	連携	熊取町	学内/外	大阪府	定期(年)	1
第17回サンライズキャンブ	主催	大阪体育大学	学外	福島県	定期(年)	4
OUHSスポーツキャンプ2025	主催	大阪体育大学	学内	大阪府	定期(年)	1
能登半島地震災害支援活動	主催	大阪体育大学	学外	石川県	定期(年)	3
ウィンターキャンプ2025(2024年度)	主催	大阪体育大学	学外	大阪府	定期(年)	2
障がい体験授業	主催	大阪体育大学	学外	大阪府	定期(年)	9
第25・26期子ども運動教室	主催	大阪体育大学	学内	大阪府	定期(年)	20
第68回西成区民体育レクリエーション大会	派遣	西成区役所	学外	大阪府	定期(年)	1
ニュースポーツフェス2025	連携	岸和田市教育委員会 岸和田市スポーツ推進委員協議会	学外	大阪府	定期(年)	1
キッズボーシャーズ	主催	大阪体育大学	学内	大阪府	定期(年)	22
公益財団法人ライフスポーツ財団委託研究事業	受託	公益財団法人ライフスポーツ財団	学外	高知県	定期(年)	2



## ② スポーツ局

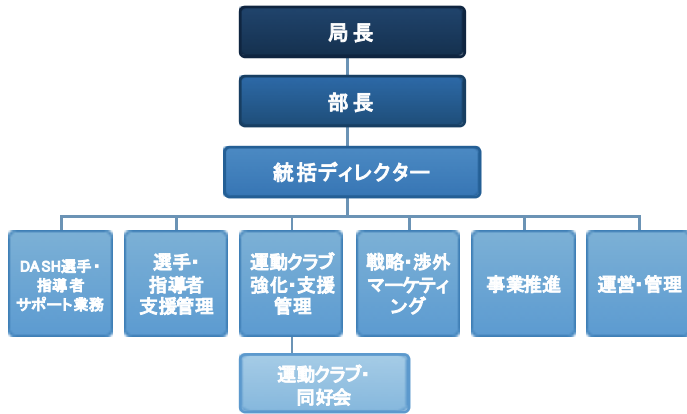
— 大学スポーツを支え、価値創造を推進する中核基盤 —

### スポーツ局の歩みと使命（設立背景・ミッション）

スポーツ局は、本学が有するスポーツに関する教育・研究機能を活用し、学生スポーツの競技力向上、人材育成・教育、学内外におけるスポーツ振興を総合的に支えるため、2018年4月1日に設置された。運動クラブの統括、学生アスリートの修学・キャリア・生活支援、指導者・スタッフ支援、広報・ブランディング、卒業生や外部機関との連携、地域社会の健康増進やスポーツ振興に資する事業の企画・推進などを担い、本学の大学スポーツ振興・推進の中核として機能している。

#### 02 スポーツ局 組織図

Organization Structure



#### スポーツ局とは

- 競技活動と人材を社会とつなぎ、学生には競技力向上と社会経験を両立する学びの機会を、教員には実践的な研究の場とデータ収集の機会を創出する組織である。
- 大学主体の競技力強化とブランディング推進、自治体・地域からの要請に応じたクラブの社会貢献活動、それぞれの役割で社会と連携している。

#### 03 活動概要 / Activity Overview

年間の事業実績を4つの切り口で可視化

事業数

17 件

実施頻度（定期率）

70.6%

実施形態



事業内容



実施地



#### 04 活動実績・インパクト / Impact & Results

2024年度の主要指標（実施ベース）

参加者数

（延べ数）

2,264人

運営学生数

（延べ数）

324人

運営指導者

（延べ数）

41人

活動日数

（延べ数）

87日

関連企業・団体・自治体

（実数）

39

※ 参加者数（延べ数）は、受託・主催の全17事業の合計。

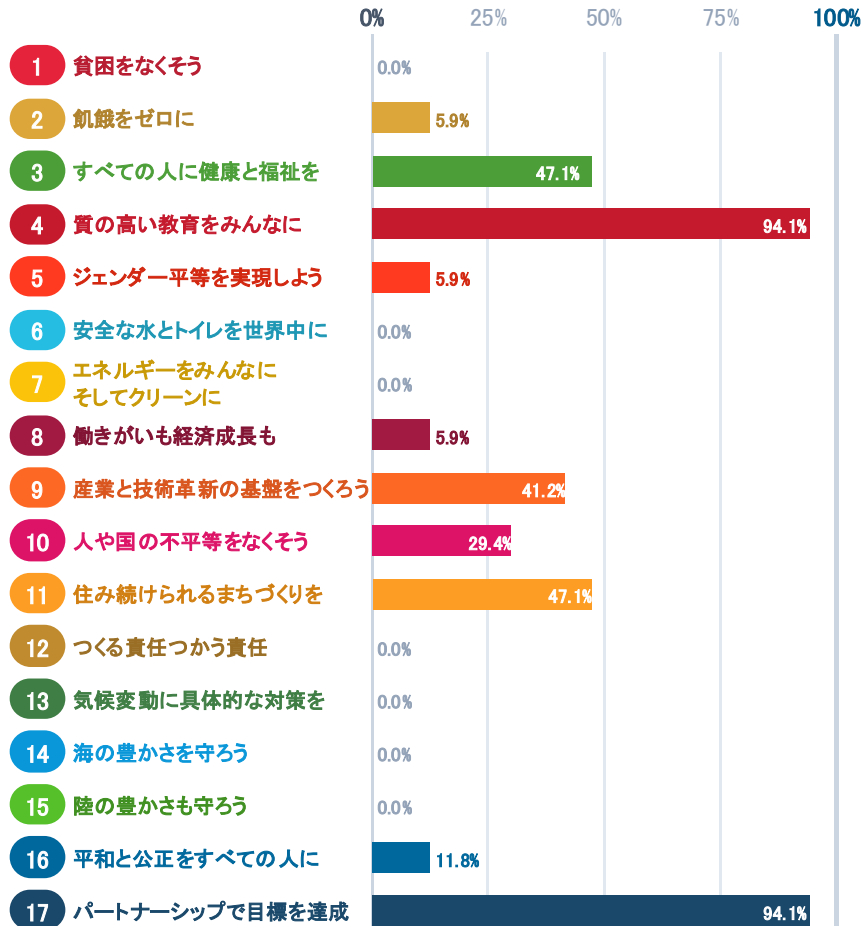
※ 関連企業・団体・自治体は、延べ44団体のうち重複を除く実数。



## スポーツ局によるスポーツSDGs目標への接続状況と事業一覧

- SDGs目標への接続状況は、スポーツ局の事業が教育、人材育成、パートナーシップの領域に強く接続していることを表す。
- 少数事業でも高い専門性と連携性を持つ点は、大学スポーツ振興・推進を支える中核基盤としての特徴を表す。

### 01 スポーツ局によるSDGs17目標への接続状況(全17事業)



### 02 スポーツ局 事業リスト(全17事業)

活動名	実施形態	主催団体	実施場所	実施場所(詳細)	実施頻度	活動日数
スポーツ局指導者講習会	主催	スポーツ局	学内	大阪府	定期(年)	1
フレンドリーマッチ2024	主催	大阪体育大学	学内	大阪府	定期(年)	1
スポーツサイエンス実習	受託	桜宮高等学校	学内	大阪府	定期(年)	2
あしゆびプロジェクト	受託	泉大津市	学外	大阪府	定期(年)	14
スポーツ科学サポート	受託	関西スポーツ医科学サポートコンソーシアム	学内	大阪府	定期(年)	1
くろしおキッズ合宿	受託	高知県スポーツコミッション	学内	大阪府	定期(年)	3
競技力向上支援(バスケットボール)	受託	高知県スポーツコミッション	学内	大阪府	定期(年)	1
指導者講習	受託	びわ湖東北部地域連絡協議会	学外	滋賀県	定期(年)	3
競技力向上支援(バレーボール)	受託	高知県スポーツコミッション	学内	大阪府	不定期	1
宿泊研修	受託	岡豊高等学校	学内	大阪府	不定期	2
フレイル予防マスター講座	受託	熊取町	学外	大阪府	定期(年)	3
ゴールデンキッズプログラム	受託	和歌山県ゴールデンキッズ発掘プロジェクト実行委員会	学内	大阪府	定期(年)	1
ICTを活用した部活動支援	受託	高知県スポーツコミッション	オンライン	オンライン	不定期	1
指導者講習	受託	高知県教育委員会	学外	高知県	不定期	1
指導者派遣	受託	熊取町教育委員会	学外	大阪府	定期(年)	50
バラスポーツ交流会	受託	高知県	学外	高知県	不定期	1
指導者講習	受託	高知県	学外	高知県	定期(年)	1



### ③ クラブ活動

— 学生の成長と社会的価値を生み出す実践現場 —

#### クラブ活動の歩みと使命（設立背景・ミッション）

クラブ活動は、52クラブ（4同好会含む、男女別）、所属部員数2,040人（所属率73.7%）を擁する本学の大学スポーツの中核的な実践基盤であり、大学が開学した1965年に創部のクラブも多い。学生が競技活動を通じて成長すると同時に、地域や社会と関わる力を育む現場である。競技力の面でも、たとえば女子ハンドボール部は全日本学生選手権12連覇、男子サッカー部は関西学生サッカーリーグ1部優勝、女子剣道部は関西女子学生剣道優勝大会優勝、陸上競技部は日本学生個人選手権男子400m優勝 などの実績を有している。こうした競技実績を基盤としながら、クラブ活動は地域連携や社会貢献へも実践を広げ、大学スポーツの価値を社会的価値へつなげる役割を担っている。

#### 01 活動概要 / Activity Overview

52クラブ・同好会（38種目・種類）

事業数 / Total

92 件

実施頻度(定期率)

69.6 %

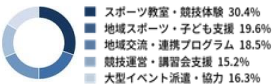
#### 実施形態

/ 事業の実施区分



#### 事業内容

/ 活動カテゴリー of 分類



#### 実施場所

/ 都道府県別



#### 02 活動実績・インパクト / Impact & Results

運営学生数（延べ数）

12,697 人

運営指導者数（延べ数）

1,357 人

参加者数（延べ数）

40,587 人

活動日数（延べ数）

1,095 日

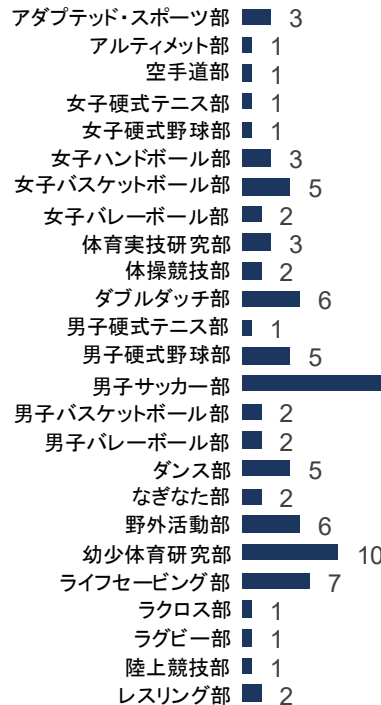
関連企業・団体・自治体（実数）

124 団体

※ 参加者数（延べ人数）は大型イベント派遣・協力を除いた数値。  
※ 関連企業・団体・自治体は延べ142団体のうち重複を除く実数。

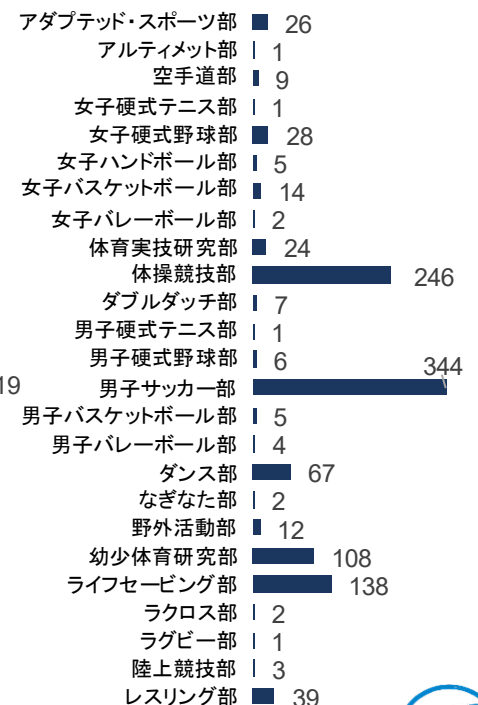
#### クラブ別 事業数

/ 多い順(全25クラブ)・単位:件



#### クラブ別 活動日数

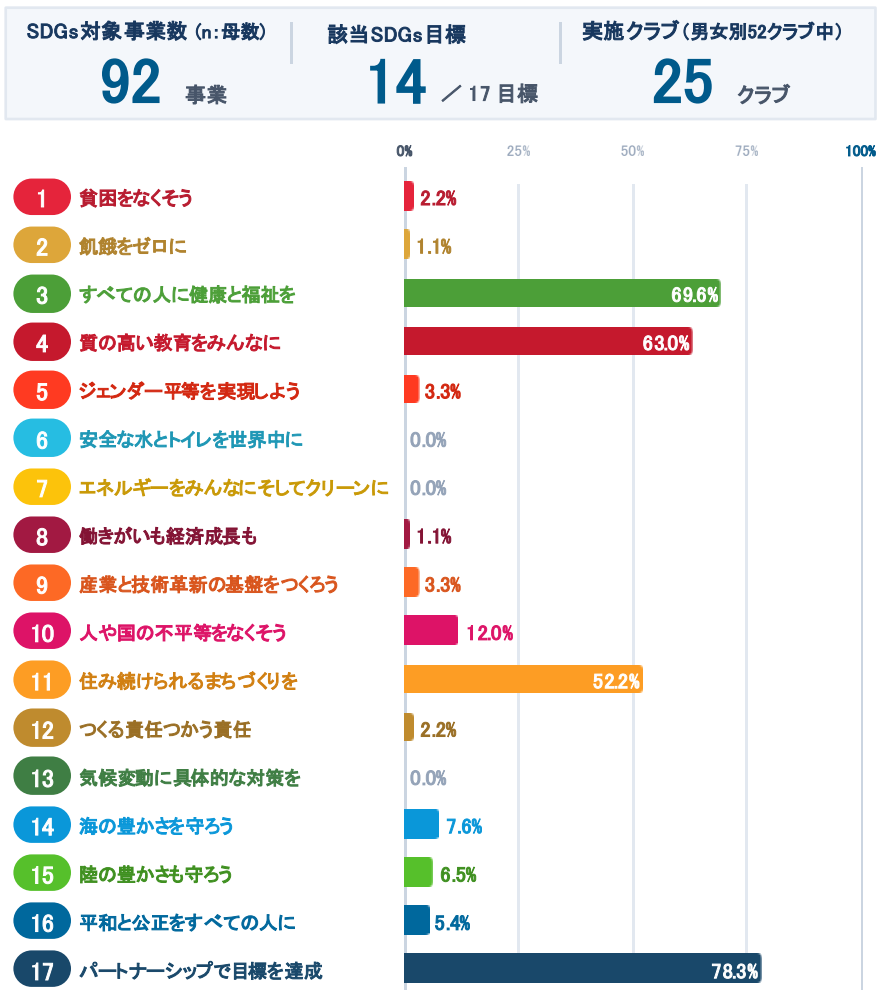
/ 多い順(全25クラブ)・単位:日



## クラブ活動のSDGs目標への接続状況とマナーアップキャンペーン

- SDGs目標への接続状況は、クラブ活動が健康、教育、地域づくり、パートナーシップを中心に多面的な社会的価値を生み出していることを表す。
- マナーアップキャンペーンへの高い参加率は、クラブ活動が地域の安全や共生を支える日常的な社会実践としても機能していることを表す。

### 01 クラブ活動によるSDGs 17目標への接続状況



### 02 クラブが参画するマナーアップキャンペーン (主管:学友会)

#### 活動概要 / Overview

交通事故防止と安全意識の向上、地域社会との連携を目的として、地域貢献活動「マナーアップキャンペーン」を毎年行なっている。2024年度は前期(5/24, 6/4, 6/13, 6/24, 7/3)、後期(9/30, 10/9, 10/24, 11/5, 11/22) 各5日間、学友会を中心にクラブ生や教職員が大学周辺の交差点や通学路に立ち、登校中の学生へ一時停止や信号遵守、歩行者優先といった基本マナーの徹底を呼びかけ、地域の安全な環境づくりに努めている。



#### 年間総参加者数(延べ数)

520 人

#### 参加学生数(クラブ・同好会)

クラブ生: 414人 | 同好会生: 16人

430 人

#### 参加職員数(延べ数)

90 人

#### 参加団体 / 実数

29 団体

※ 団体 = クラブ・同好会の内、男女共同・一体とした単位 (= 種目)

#### 部活動 28 / 同好会 1

#### 学友会団体 参加率

76.3 %

参加 29団体 / 母数 38団体

※ 52クラブ・同好会の内、男女共同・一体として38団体 (= 種目) としている。



## クラブ活動による主な事業リスト（全92事業から25事業を抜粋）

- このリストは、クラブ活動が特定の競技や単発イベントに限られず、多様な種目・場所・頻度で社会と接続していることを表す。
- 学内外で継続的かつ多様な実践は、クラブ活動が学生の成長の場であると同時に、地域社会に価値を還元する基盤でもあることを表す。

No.	クラブ名	イベント名	実施形態	実施場所	実施場所(詳細)	実施頻度	活動日数
1	アダプテッド・スポーツ部	わくわくアダプテッド・スポーツクラブ	主催	学内	大阪府	定期(月)	24
2	アルティメット部	高知県パスウェイシステム事業高知くろしおキッズ	協力・依頼・受託	学内	大阪府	定期(年)	1
3	空手道部	合宿	主催	学内	大阪府	定期(年)	9
4	女子硬式テニス部	和歌山ゴールデンキッズ・大体大トレーニング合宿プログラム	協力・依頼・受託	学内	大阪府	不定期(年)	1
5	女子硬式野球部	野球教室	主催	学外	大阪府	定期(月)	28
6	女子ハンドボール部	第2回ハンドボールキャンプin大体大	主催	学内	大阪府	不定期(年)	2
7	女子バスケットボール部	ネクストリーグ	主催	学内外	大阪府、滋賀県	定期(年)	3
8	女子バレーボール部	バレー教室2024	協力・依頼・受託	学内	大阪府	不定期(年)	1
9	体育実技研究部	ゴーイング	協力・依頼・受託	学外	大阪府	定期(年)	1
10	体操競技部	体操教室	協力・依頼・受託	学内	大阪府	定期(週)	245
11	ダブルダッチ部	貝塚市役所	協力・依頼・受託	学外	大阪府	不定期(年)	2
12	男子硬式テニス部	大阪府車いすテニス強化練習会及び指導講習会	主催	学内	大阪府	定期(年)	1
13	男子硬式野球部	野球教室	主催	学内	大阪府	定期(年)	1
14	男子サッカー部	サッカースクール(泉佐野)	派遣	学外	大阪府	定期(週)	96
15	男子バスケットボール部	バスケットボール教室	協力・依頼・受託	学外	岐阜県	定期(年)	4
16	男子バレーボール部	大阪体育大学CUP	主催	学内	大阪府	定期(年)	3
17	ダンス部	ダンスプレイス	協力・依頼・受託	学外	大阪府	定期(月)	24
18	なぎなた部	熊取武道祭	協力・依頼・受託	学外	大阪府	定期(年)	1
19	野外活動部	棚田子育てフェス	協力・依頼・受託	学外	兵庫県	定期(年)	2
20	幼少体育研究部	とれぞあ保育園幼児体育教室(泉大津市)	協力・依頼・受託	学外	大阪府	定期(週)	38
21	ライフセービング部	臨海実習(大阪体育大学)	派遣	学外	和歌山県	定期(年)	5
22	ラクロス部	上海のラクロス部と交流	協力・依頼・受託	学内	大阪府	不定期(年)	2
23	ラグビー部	寄付活動	協力・依頼・受託	学内	大阪府	定期(年)	1
24	陸上競技部	かけっこ教室	派遣	学外	兵庫県	定期(年)	3
25	レスリング部	ゼッセル熊取レスリングスクール	協力・依頼・受託	学内	大阪府	定期(週)	35

※ 2024年度に社会的活動を実施した25種目クラブ(同種目の男女クラブを分けずに提示:五十音順)

### 3. 本レポートが明らかにしたこと／今後の課題と展望

#### — 第1回レポートとして、中核三機能から可視化した大学スポーツエコシステム —

本レポートを通じて明らかになったのは、大阪体育大学の大学スポーツが、学生の成長、地域社会の課題解決と価値創造、well-beingへの貢献を生み出す実践基盤であるということである。今回は、その価値をまず、スポーツ局・クラブ活動・社会貢献センターという三つの中核機能から可視化した。これらの運動は、本学独自の大学スポーツエコシステムとして社会的価値を継続的に創出している。

また、本レポートで可視化した中核三機能の実践は、本学の大学スポーツが、特に「3:すべての人に健康と福祉を」「4:質の高い教育をみんなに」「10:人や国の不平等をなくそう」「11:住み続けられるまちづくりを」「17:パートナーシップで目標を達成しよう」といったSDGs目標に強く接続していることを明らかにした。これは、本学の大学スポーツが、健康、教育、地域共創、包摂、連携という社会的価値を中核に展開していることを意味している。

一方で、その社会的価値はなお十分に可視化・共有されているとは言い切れない。今後は、学内の附置センター、教育機能、研究機能にも着目し、本学の大学スポーツエコシステムをより立体的に可視化していくことが重要である。



#### 【本レポートが明らかにしたこと】

- 本学の大学スポーツは、学生の成長、地域社会の課題解決と価値創造、well-beingへの貢献を生み出す実践基盤である。
- 本レポートでは、その価値をスポーツ局・クラブ活動・社会貢献センターという中核三機能から可視化した。
- その結果、本学の大学スポーツは、特に「3:すべての人に健康と福祉を」「4:質の高い教育をみんなに」「10:人や国の不平等をなくそう」「11:住み続けられるまちづくりを」「17:パートナーシップで目標を達成しよう」に強く接続していることが明らかになった。

#### 【課題と展望】

- 大学スポーツの社会的価値は、なお十分に可視化・共有されているとは言い切れない。
- 今後は、学内附置センター、教育機能、研究機能を含めて捉えることで、本学の大学スポーツエコシステムをより立体的に可視化していく必要がある。

## IV.

# 大阪体育大学 大学スポーツサステナビリティ・パートナー制度 (検討中)



大阪体育大学 大学スポーツサステナビリティ・パートナー制度(検討中)

## 共に、大体大サステナビリティを通じて社会課題の解決に歩みませんか。

学生の成長を、地域の力へ。  
大学スポーツの価値を、  
社会の未来へ。

大阪体育大学は、大学スポーツを通じて学生の成長、地域連携、社会のwell-being向上に取り組んでいる。本レポートで可視化した価値を一過性で終わらせず、今後さらに発展させていくために、多様なパートナーとともに持続的な価値創造へつなげるため、「サステナビリティ・パートナー制度(検討中)」を進めている。支援、連携、共感。大切なのは、本学の価値と方向性を共有し、ともに未来をつくることである。

### 1. 支援パートナー

大学スポーツ振興やクラブ活動を支える。

#### 大学スポーツ振興パートナー

振興全体への資金・物品提供、人的資源等の協創(例:協同実績企業など)

#### クラブ活動支援パートナー

各クラブの活動基盤、学生の成長、社会・地域実践を支える企業・団体・個人

### 2. 連携パートナー

教育・地域連携・人材育成・社会貢献をともに実践する。

#### 主な想定対象

本学と連携協定等を締結している自治体、教育委員会、教育機関、地域団体等

### 3. 共感パートナー

本学とパートナーの価値と方向性をともに発信する。

#### 主な想定対象

理念に共鳴し、将来的な連携や価値発信・広報に協力・共働いただける企業・団体等

### 共創へのステップ

共感 理念・ビジョンの共有 > 連携 対話とアクション検討 > 支援・共創 持続可能な取り組み実施 > well-beingの実現 学生・地域・社会の幸せ

CONTACT: 大阪体育大学広報室

mail: koho.users@ouhs.ac.jp

Tel: 072-453-7021



## 資料 ①

### 「大学スポーツSDGs17目標達成への貢献の判断基準」

本資料は、本レポートにおける各事業・活動のSDGs目標との対応関係を判断する際の基準を示したものである。基準には、公益財団法人日本スポーツ協会（JSPO）が国連広報センター「スポーツと持続可能な開発」をもとに作成した資料『SPORT × SDGs スポーツと持続可能な開発』（2022年5月25日現在）を用いた。同資料に基づき、下記の判断基準を設定した。

- 1 貧困をなくそう**：経済的困難層、生活困窮家庭、社会的自立、就労支援、生活スキル支援などを明示している活動。
- 2 飢餓をゼロに**：栄養指導、食育、食生活改善、食料支援、農業・地産地消と結びつく活動。
- 3 すべての人に健康と福祉を**：健康づくり、体力向上、運動機会、介護予防、障がい者スポーツ、メンタルヘルス、ウェルビーイングに直接関わる活動。
- 4 質の高い教育をみんなに**：指導、講習、教室、研修、学校連携、子どもの学習、学生の実践的学びが明確な活動。
- 5 ジェンダー平等を実現しよう**：女性、女兒、女子競技、女性アスリート、女性指導者、ジェンダー平等を明示している活動。
- 6 安全な水とトイレを世界中に**：水衛生、衛生管理、水分補給教育、熱中症対策、水利用管理を目的に含む活動。
- 7 エネルギーをクリーンに**：省エネ、再生可能エネルギー、節電、施設エネルギー管理、環境配慮型運営を明示している活動。
- 8 働きがいも経済成長も**：職業訓練、キャリア教育、スポーツ産業、地域経済、雇用、ビジネス、実践的マネジメントに関わる活動。
- 9 産業と技術革新の基盤を**：ICT、DX、AI、測定、スポーツ科学、研究開発、技術活用、施設・仕組みの改善を伴う活動。
- 10 人や国の不平等をなくそう**：障がい者、高齢者、子ども、外国人、低所得層、社会的孤立層など、参加機会に制約のある人を対象にした活動。
- 11 住み続けられるまちづくりを**：地域交流、自治体連携、住民参加、居場所づくり、防災、地域活性化、まちづくりに関わる活動。
- 12 つくる責任つかう責任**：リユース、リサイクル、廃棄物削減、持続可能な大会運営、物品管理、環境配慮を明示している活動。
- 13 気候変動に具体的な対策を**：気候変動、脱炭素、環境教育、災害復興、防災、熱中症対策、環境配慮型イベントを含む活動。
- 14 海の豊かさを守ろう**：海、海岸、河川、水辺、水上競技、海洋保全、清掃活動、ビーチスポーツに関わる活動。
- 15 陸の豊かさを守ろう**：森林、公園、里山、緑地、自然体験、清掃、陸上生態系、環境教育、自然保全を含む活動。
- 16 平和と公正をすべての人に**：平和、相互理解、多文化共生、防犯、警察連携、非行防止、社会統合、公正、フェアプレーを明示している活動。
- 17 パートナーシップで目標達成**：自治体、学校、企業、競技団体、NPO、地域団体など複数主体との連携・共催・協働が明確な活動。

資料 ②

「スポーツ局管轄（学友会所属）クラブ・同好会」一覧

【2024年度】

クラブ・同好会数(男女別): 52、所属部員数2,040人(所属率73.7%)

トラック&フィールド競技

- > 陸上競技部
- > トライアスロン部

ウォータースポーツ

- > 水上競技部(男子)
- > 水上競技部(女子)
- > ライフセービング部

クラブハウス

- > クラブハウス

球技

- > アメリカンフットボール部
- > 硬式野球部(男子)
- > 硬式野球部(女子)
- > 軟式野球部(男子)
- > 軟式野球部(女子)
- > サッカー部(男子)
- > サッカー部(女子)
- > ソフトテニス部(男子)
- > ソフトテニス部(女子)
- > ソフトボール部(男子)
- > ソフトボール部(女子)
- > テニス部(男子)
- > テニス部(女子)
- > バスケットボール部(男子)
- > バスケットボール部(女子)
- > バドミントン部
- > バレーボール部(男子)
- > バレーボール部(女子)
- > ハンドボール部(男子)
- > ハンドボール部(女子)
- > ラグビー部
- > ラクロス部

武道・格闘技

- > 空手道部
- > 剣道部(男子)
- > 剣道部(女子)
- > 柔道部(男子)
- > 柔道部(女子)
- > なぎなた部
- > レスリング部

体操・ダンス

- > 体操競技部(男子)
- > 体操競技部(女子)
- > ダンス部
- > 新体操部

その他

- > アスレティックトレーナーチーム
- > アダブテッド・スポーツ部
- > アルティメット部
- > 体育実技研究部
- > ダブルダッチ部
- > 野外活動部
- > 幼小体育研究部

同好会

- > ローイング同好会
- > フィールドホッケー同好会(男子)
- > フィールドホッケー同好会(女子)
- > 日本拳法同好会
- > ボクシング同好会

OUHS  
ATHLETICS

スポーツ局TOP  
OUHS ATHLETICS

- > スポーツ局とは
- > 施設紹介
- > スポーツ局コラム
- > スポーツ局ニュース
- > プロジェクト
- > アスリート宣言
- > 大体大スポーツの歴史

# 本物を学び、極める

大阪体育大学  
大学スポーツ・サステナビリティ・インパクトレポート2024  
OUHS College Sports Sustainability Impact Report 2024

---

発行日	2026年7月
対象期間	本レポートに掲載した活動および実績データは2024年度の内容に基づいている
発行人	大阪体育大学
発行所	〒590-0496 大阪府泉南郡熊取町朝代台 1-1
制作・監修	広報・ブランディング委員会
制作責任者	藤本淳也（学長補佐・教授、広報・ブランディング委員長）
制作協力	社会貢献センター スポーツ局 スポーツ局所属クラブ・同好会 大学院スポーツ科学研究科院生（福永、岩本、宮内）

---

本書の無断複写複製（コピー）は、特定の場合を除き、著作権の侵害となります。